学習内容報告書　南新浜小学校

学校名	市川市立南新浜小学校
授業者	4年担任：中野貴史　小林愛奈　河野祐子　小林美保

1.　単元計画

（1）　海と自分たちのかかわりを振り返ろう（計１５時間）

（2）干潟について調べよう（計４５時間）

〇干潟観察会事前学習（８時間）

〇干潟に行ってみよう PART1（２２時間）※調べ学習等含む

・行徳鳥獣保護区人工干潟

〇干潟に行ってみよう PART2　（６時間）

・谷津干潟

〇2つの干潟の比較をしてみよう（３時間）

〇谷津干潟の生きものについてテーマを決めて調べる（６時間）

（3）「海とつながるわたしたち」の学習のまとめをしよう（計１０時間）

1-1.　単元名

海とつながるわたしたち

1-2.　学年

４年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

本単元では，まず，本校が海に隣接していることを振り返る。3年時の市川市の学習を想起させたり，航空写真や行徳湿地の写真を見せたりして，南新浜小と海とのつながりを考えさせたい。 次に，児童の主体的に学ぶ意欲を高めるため，干潟の観察会を実施する。1 回目は行徳鳥獣保護区内の人工干潟，2 回目は谷津干潟の生きもの観察を中心とした体験学習を実施し，専門家の指導を受けながら，観察会後に調べてみたいテーマを決めさせる。生きもの図鑑を作ったり，2 つの干潟の特徴をまとめたりさせながら，これから自分たちがどのように海とかかわり、どのように海を守っていくかということについて考えさせていきたい。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

本校は，学校教育目標「豊かな感性と確かな学力を持ち，人として社会に役立ちたくましく生きる子ども」の具現化のため，教育活動を推進している。総合的な学習の時間に関しては，「地域を知り，地域のために貢献していく」ことをテーマとした学習を展開してきたが，平成２９年度以前は海洋環境に目を向けたテーマ設定をしたり，体験活動をさせたりすることは少なかった。２９年度より，東京湾の干潟を素材とした海と自分たちのつながりの深さを実感的に理解できる学習や干潟についての学習が始まり，毎年児童は意欲的に学習を進めてきた。今年度においても、昨年までの実践をもとに，本校の地区の特徴である「東京湾に学区が接していること」「行徳鳥獣保護区内に干潟があること」を生かした学習計画を作成し，海とのつながり，海洋環境，海（干潟）の生きものへの興味関心を高めていきたい。そして，主体的に調べ学習を行わせることで，自分たちの地元市川に誇りや愛着を持たせて行きたいと考える。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

・自分が関心を持ったことを主体的に調べていこうとする意欲（目標設定の力） ・自分の課題について情報を集め、それらを整理し、まとめたり表現したりする能力（調べる力・表現力） ・友達と協働して学習し、学びを深める能力・態度（考える力・人とかかわる力）

1-7.　単元の展開（全７０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
25	**（1）　海と自分たちのかかわりを振り返ろう**（１５時間） ○学校周辺の航空写真や行徳湿地の写真を見て南新浜小がどういう場所にあるか考える。 ○市川市の位置について３年の時の学習を振り返りながら考える。 ○海とのかかわりを話し合い、調べるテーマを決める。 ○海について調べる。 **（2）干潟について調べよう（計４５時間）** ①干潟ってどんなところ？（４時間） ②干潟について調べる（４時間） ③干潟に行ってみよう PART1（６時間） ・行徳鳥獣保護区内の干潟の生き物を観察する。 ④干潟観察会でわかったことをまとめる（６時間） ⑤干潟の生き物について調べる②（１０時間）	・航空写真を見せ，美馬未新浜小、市川市の位置について確認する。 ○南新浜小学校が海の近くに立地していることに改めて気づたか。 ○市川市が海とかかわりが深い市であることを理解できたか。 ・干潟の意味，干潟の生きものについての資料を見せ，干潟観察会のめあてをつかませる。 ・行徳野鳥観察舎友の会の方々から干潟、干潟の生きものについて説明してもらう。 ○調べたいテーマを決めることができたか ・自分のテーマについて調べる。

	⑥干潟に行ってみよう PART2　（６時間） ・谷津干潟に行って、谷津干潟に生息している生き物や干潟の様子を観察する。 ・谷津干潟自然学習センターのインストラクターの方から干潟の歴史や生き物について教えていただく。 ⑦行徳の人工干潟と谷津干潟を比べて、共通点や相違点を調べまとめる。（３時間） ⑧谷津干潟の生きものについてテーマを決めて調べる。　（６時間）	・谷津干潟の歴史、生き物などについて知らせる。 ・谷津干潟自然学習センターの方々から谷津干潟の歴史、谷津干潟の生きものについて説明してもらう。 ・谷津干潟についてまとめさせる。 ○行徳の人工干潟との共通店や相違点がわかったか
8	（３）「海とつながるわたしたち」の学習のまとめをしよう（１０時間） ・調べたことを図鑑や新聞にまとめ，発表する。	・

２　学習活動の実際

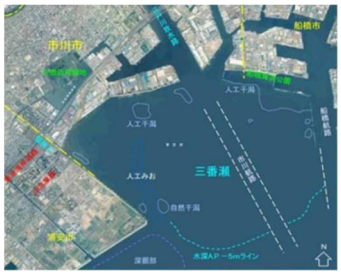
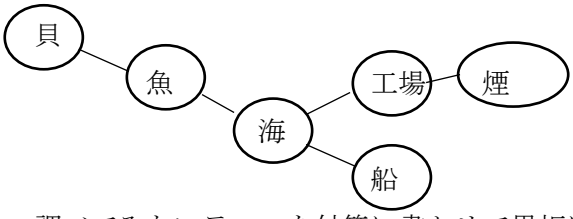
2-1 単元における位置づけ

単元　７０　時間中の　1　時間目

2-2 本時の目標

・南新浜小学校が海の近くに立地していることに改めて気づかせる。
・海についてのイメージマップを作成し，海と自分たちの生活が深く結びついていることに気づかせる。
・「海とつながるわたしたち」の学習のめあてを知る。

2-3 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　学校周辺の航空写真や行徳湿地の写真を見て南新浜小がどういう場所にあるか考える。 	・東京湾岸の航空写真を提示し，南新浜小の位置を写真上に表す。
2　市川市の地図を見て市川市の位置について話し合う。 ・東京湾が近い ・三番瀬がある ・行徳地区は江戸川にはさまれている ・埋立地がある	・市川市の南側が東京湾であることを地図で確認させ，市川市は海とつながりが深いことを確認する。  〇学校周辺の特徴が写真から理解できたか
3　「うみ」のイメージマップを作る。  ・調べてみたいテーマを付箋に書かせて黒板に貼る。	・イメージマップを作成後，どんなことを詳しく学習したくなったか考えさせる。 ・黒板に貼られたテーマを見て，種類分けする。
4　まとめをする。 ・海を理解し，海を大切にしよう	・これから行っていく学習について見通しを持たせる。（干潟観察会など）

3. 今回の活動の自己評価

今年度で海洋教育パイオニアスクールプログラムは終了となるが、3 年間の実践で，南新浜小学校の総合的な学習の時間のプログラムとして海洋教育が大変有効であることが証明されたと思う。また、２つの干潟での体験学習は４年生の発達段階に合ったものだったため，児童は単元を通して大変意欲的に学習に取り組んでいた。調べ学習や図鑑つくりなどのまとめの学習には時間をかけることができたが，外部講師による専門的な内容の授業を実施していれば，海洋環境の保全等についての理解がさらに深まったと思われる。 次年度も 4 年生の総合的な学習の時間の中心的な単元として、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう，学習内容を工夫していきたい。

2.　今後の課題

・海洋教育をさらに充実させるためには，カリキュラムマネジメントを確立し，各学年での指導を工夫改善する必要がある。 ・助成をしていただき，様々な活動を充実させることができたが，今後は行政等の関連機関と連携した海洋教育を推進していきたい。

3.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にありません。